

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のワクチン接種について

(法政大学教職員、学生の皆様へ)

新型コロナウイルス感染症は、現在もなお私たちの生活に大きな影響を及ぼしています。ようやくワクチンの接種も進み、状況は変わりつつあります。現在医療従事者・高齢者を始め、その効果はすでにある程度評価されています。

本学で使用予定の COVID-19 ワクチンモデルナ筋注[®]は mRNA ワクチンで、2021 年 5 月 21 日に国内承認され、5 月 24 日からすでに大規模接種会場で接種が開始されました。その有効性に関しては、臨床試験で 94.1%の発症予防効果が報告されています。また、発症を抑制するだけでなく、重症化を防ぐ効果も期待されています。

注射した部位の痛みや、頭痛、倦怠感などの副反応は一般的に数日間で消失します。ワクチンによって体の中でスパイク蛋白が合成されますが、ウイルスの全ての部分が合成されたり、生きたウイルスが体に入るわけではないので、ワクチン接種によって新型コロナウイルスに感染することはありません。また、mRNA ワクチンを接種することで、接種された人の遺伝情報に影響が及ぶことはありません。

私たち一人一人がワクチン接種の安全性、有効性について理解し、接種するかどうかを自分で判断することが重要です。

法政大学 統括産業医
市ヶ谷校地産業医・学校医
東京大学第三内科、医学博士、総合内科・糖尿病専門医
鈕 培

参考文献 Baden et al. N Engl J Med. 2021 Feb 4;384(5):403-416.